

第9回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・同推進賞受賞者

標記の賞につき、会員の皆さまよりご推薦いただいた候補のなかから選考の結果、2014年度は学会賞1件・推進賞1件の下記授賞を決定いたしました。今後とも本賞の発展にご協力くださいますよう、お願いいたします。

◆第9回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞

〔賞の概要〕

『アート・ドキュメンテーション研究』、『アート・ドキュメンテーション通信』、その他の雑誌に掲載の論文・記事、図書、データベース、展覧会、ウェブサイトのなかから優れたものを選出。会員に限らない。対象となる論文・記事、図書、展覧会は、受賞年の前年度を含む過去3年間に発表されたものとする。

受賞	<p>金子 貴昭 氏</p> <p>『近世出版の板木研究』(2013年4月、法蔵館)及び「板木閲覧システム」に対して</p>
授賞理由	<p>日本において伝統的な出版を支えたのは「板木」によって刷られた「板本」であった。板本には長い書誌学の歴史があるが、板木は、重たく、また墨による汚れによりドキュメンテーション自体が困難であるため、ほとんど研究対象として顧みられることがなかった。金子氏はこれまで置き去りにされてきた板木をデジタル・アーカイブ化することによって研究利用を可能とし、さらにそれを素材として「板木」の資料としての性格を明らかにした。その研究成果が『近世出版の板木研究』である。研究の素材となった膨大な江戸時代の板木は精細な画像情報とメタデータとともに「板木閲覧システム」としてウェブ上で公開され、著書ではイメージ・データベース蓄積のノウハウについても論じられている。</p> <p>本書及びデータベースは板木という文化情報流通の媒体について、その学術的活用の可能性を具体的に示した先駆的な業績であり、情報科学技術が人文学研究に好影響を与えた事例としても評価される。今後の研究展開が期待されるところであり、アート・ドキュメンテーション学会賞にふさわしい。</p>

◆第9回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション推進賞

〔賞の概要〕

アート・ドキュメンテーション関係業務の現場において、効果的かつオリジナリティを発揮した者、あるいは機関を選出。会員に限らない。

受賞	<p>松岡 資明 氏</p> <p>「ジャーナリストとして、アーカイブズの意義と重要性について社会の関心を喚起し、制度の改革に寄与した報道及び著述活動」に対して</p>
授賞理由	<p>松岡氏は長く日本経済新聞社文化部に勤務する中で、記録資料と文化情報資源について関心を持ち、アーカイブズについて広く調査研究を深めて、その保存、管理の社会的重要性を『日本経済新聞』本紙のみならず、広く各種媒体で訴え続けてきた。関連する記事は数百点に及ぶ。特に2002年12月17日付『日本経済新聞』「文化往来」欄に掲載された記事が福田康夫元首相（当時官房長官）の目に留まり、その後の「公文書管理法」制定のきっかけとなったことは、広く知られている。また近年ではアーカイブの重要性について論じた2冊の著書を公刊している。</p> <p>氏は本年3月、日本経済新聞社を退職されたが、これまでジャーナリストとしてアーカイブズの重要性について広く日本の社会に知らしめ、制度化に当たって大きな寄与を果たされたことについて、その功績を讃え、アート・ドキュメンテーション推進賞を授与する。</p>

※第10回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・推進賞の推薦募集は2016年1月下旬の開始予定です。詳細は『アート・ドキュメンテーション通信』および学会のウェブサイトにて告知いたします。会員のみならず、ぜひ多くの推薦をお寄せくださいますようお願い申し上げます。